



教育相談だより

附属坂出学園 心の支援部 令和4年12月号

あっという間に12月、冬の訪れを感じるようになりました。

さて、皆さんは何度も観たくなる映画はありますか？私はスタジオジブリ映画が大好きで何度も観ています。「となりのトトロ」「魔女の宅急便」「千と千尋の神隠し」「崖の上のポニョ」等々。ジブリ映画は子どもの発達を知る手引き書として観ることもでき、学ぶことがたくさんあります。そこで、今回は「千と千尋の神隠し」から思春期について考えたいと思います。千尋が入り込んだ不思議の世界を思春期の世界と捉えることで、思春期の心性が垣間見えてきます。

主人公は10歳の千尋です。彼女はトンネルに入る前までは、子ども時代を生きていました。トンネルは思春期の入り口であり、「ここはいやだ、戻ろう」と、トンネルに入るのを嫌がります。これは思春期を迎えるすべての子どもに共通した不安と読み解くことができます。親が豚になるというのは、親の価値観から脱却して自己の価値観を身に付け、親に頼らず主体的に生きていかななくてはならないこと（＝子ども時代の終わり）を象徴しています。不思議の世界の食べ物を食べないと体が消えてしまうというのは、心身が子どもから大人へ変化するのを受け入れないと思春期の世界に入る資格がないことを意味しています。千尋は不思議の世界の食べ物を食べて、思春期を生きることを受け入れました。

不思議の世界に入ると、働かない者、あいさつができない者、契約を守らない者（＝社会ルールが守れない者）は動物にされてしまいます。千尋は自分からあいさつすることができなかつたけれど、リンに教えられて、すすんであいさつができるようになっていきました。ハクやカマジイ、湯バーバやゼニバとの交流を通して、社会や文化に即して自分の立ち位置を確認しつつ、自ら考え生きていくことを習得し、相手の気持ちを察することができるまでに成長しました。

思春期は大なり小なり葛藤や困難に直面します。「大丈夫、あんたならやりとげるよ」というゼニバの言葉は、思春期を懸命に生きる子どもたちへ込められたエールのように感じられます。（文責：長谷川）

12月の相談日



○幼稚園

◇13日(火)午前:入江 SC

電話 0877-46-2694(担当:山田先生)

○小学校

◇2日(金)終日:長谷川 SC、午後:入江 SC

◇7日(水)午後:藤澤 SSW

◇9日(金)午後:長谷川 SC

◇13日(火)午後:入江 SC

◇16日(金)午後:長谷川 SC

電話 0877-46-2692(担当:村上先生)

*予約をされる方は各園・学校の教育相談担当の先生までご連絡ください。詳しい時間をご案内します。

*昼休みには子ども相談を行っています。

*新型コロナウイルス等による影響で、相談日の変更や、電話相談で対応する可能性があります。

○中学校

◇2日(金)午前:藤澤 SSW

◇9日(金)終日:藤澤 SSW

◇16日(金)午前:長谷川 SC

電話 0877-46-26 午後:95(担当:徳山先生)

